

道新富良野版連載記事「富良野の木に会う」

読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on : 2010-12-14 17:00:00

2010年夏と秋に、当センターボランティア研究員である倉橋昭夫さん（農学博士）が、北海道新聞富良野版に連載した記事を号紹介します。なおこの記事は北海道新聞社の著作物利用許諾（D1012-9912-00007004）を得て紹介しています。*「続・富良野の木に会う」は別に掲載します。

「富良野の木に会う」

～はじめに～

樹木、特に巨木は生命の大切さや地域の自然・歴史を学ぶ貴重な生きた教材といえます。

今夏、北海道新聞社富良野支局の内木弘三支局長の企画に協力し、富良野市街地、その周辺の田園地帯と身近な森にある特徴的な樹木22種を取り上げ、樹木が生育する地域の歴史や文化も織り交ぜながら、樹木の特徴や人との関わりについて紙面でご紹介しました。

連載は夏の6月29日～7月9日に「富良野の木に会う」と題して第1弾を、さらに秋の10月13日～30日にわたり「続・富良野の木に会う」として第2弾を掲載しました。

22種のうち自生郷土種（在来種）が13種、ほかに異郷土種（外来種）が9種あり、異郷土種が約半数近くに及びます。120年に及ぶ郷土の歴史において、異郷土種が身近な生活の中で定着し、様々な役割を演じています。

巨木は歴史的な財産ですが、特に郷土種は地域の自然を探る上で、保存登録されることが望ましいでしょう。身近な場所で木の名前や特性を学ぶための教材としても最適です。皆さんもここで紹介するような木々と触れ合ってみてはいかがでしょうか？なお記事中の素敵な写真は北海道新聞社の小川正成さんに撮影いただきました。

倉橋 昭夫

大きく広がる樹冠が印象的なキタコブシ。山形県鶴岡の森に一本残された貴重な存在（小山正高撮影）



富良野の木に会う ガイド
色橋昭夫さん

「大きなコブシの木の下で」と語を出して歌いだしたような力強く美しい樹冠を呈しています。山形県鶴岡の森の真ん中をのびのびと枝をのびて、木の高さが10・8m、胸高直径（地径）が1・3mの樹の冠が、樹冠の広さ南北方向が1・4m、東西方向が1・5mあり、木の高さより樹冠の広さは明らかに大きい木です。広い空間を利用して、やや円みのある大きな樹冠を形成し樹冠各部分の葉を和らげて時々の美

③キタコブシ

どっしり力強く美しく

しを有しています。樹木が花開く季節は樹冠にさくら道があり、富良野地方では樹冠に咲くものが多く、開田の山田において昔はキタコブシの木の樹冠下、非飲会館の広場も林や針広混交林の間にまっ白く浮かんで見えます。つづいてエゾヤマウツロギが、あまやかた山形を彩ってくれます。

（富良野はコブシの花が数軒で、この大木も樹冠に咲いていました。由本町中野田ンターミナルで、友の会代産）



富良野の木に会う
ガイド
色橋昭夫さん

④ミタコブシ

青空高く伸び伸びと

樹冠が、樹冠の広さは南北方向が1・4m、東西方向が1・5mあり、木の高さより樹冠の広さは明らかに大きい木です。広い空間を利用して、やや円みのある大きな樹冠を形成し樹冠各部分の葉を和らげて時々の美

富良野市立小学校のシンタレヤナギ。木高さが17メートル、樹冠幅が25メートル、樹齢約100年。



富良野の木に会う

ガイド 倉橋昭夫 さん

校庭には元気で立派に育つ木が多くあります。小学校庭の交通路に

も大きいシンタレヤナギが

902年（明治35年）開校以来、樹高は樹長、樹冠がで、樹下は約10メートル以上の

樹下は約10メートル以上の樹冠がで、樹下は約10メートル以上の樹冠がで、樹下は約10メートル以上の

⑥ シンタレヤナギ

校庭見守る大きな傘

の太い木が並んでいま、この木は、樹高17メートル、樹冠幅25メートル、樹齢約100年です。6月に4年生が植木の日には大きな傘となり、林を形成されています。開かれた時に、校庭で安心感を与えてくれる。富良野市立小学校シンタレヤナギが知っている木をあげても、この子も大切に育てられています。シンタレヤナギの成長は、富良野市のシンボルとして、大切に育てられています。

市庁の横に大きく繁茂を遂げるミズナシ。歴史の古い平和緑地のシンボル（山田成徳氏）



富良野の木に会う ガイド 倉橋昭夫さん

明治初めに北樺州に入ってきた、広くフタタシ、クスカケノキと鉢はれてきた、クスカケノキとアメリカススカケノキの混雑。主としてバスカケノキで、ミズナシといわれていた。雑木の植栽樹で、多いのがアサカシ、イチヨウ、シダレヤナギ、ニシアカシアで、いずれも樹種もかなり種々な雑木や樹群の切り詰められて、再植が旺盛です。空間の許す限り自然の樹姿に伸ばしたいものです。プラタナスは葉が大きく、その下なる球状の葉が特徴的。

⑦ プラタナス

木肌の模様ユニーク

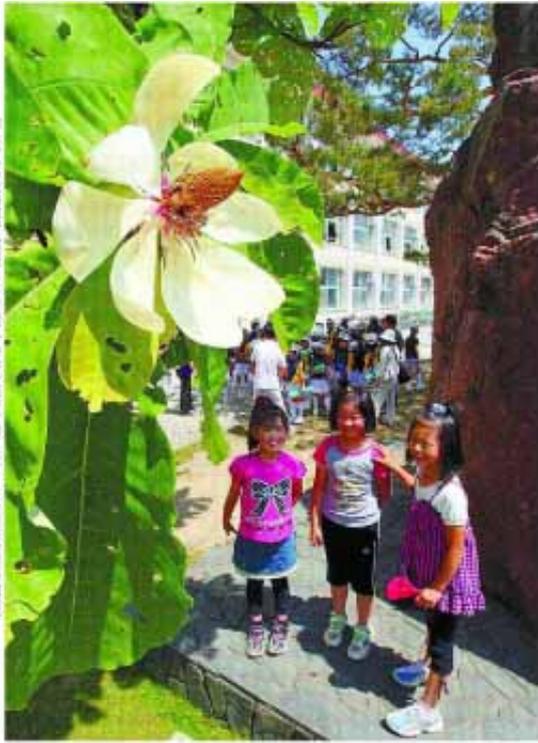
本肌の模様が面白く、滑らかで磨りがよく公園樹に適している。市庁で園遊年古いの公園（1982年、市役所前の平和公園（もりもり世）に併設の公園）は、樹の木の皮が、公園を重畳する木として人気が高いです。文化芸術の基木から、異い目に惹きつけている人が多くいます。日本ススカケノキといわれる、山びが上にある樹種に由来して、いよと書かれます。（田中藤子氏）



富良野の木に会う ガイド 倉橋昭夫さん

⑧ ヤチダモ
湿地の代表 幹真つすく
この樹種は、富良野の湿地に多く見られる。幹は非常に太く、樹皮は滑らかで、樹高も高く、湿地の景観を形成している。また、この樹種は、富良野の湿地に多く見られる。幹は非常に太く、樹皮は滑らかで、樹高も高く、湿地の景観を形成している。

富良野小の北海道中心校が愛する一輪、芳華を染む甘味くホオノキの花（小川正成撮影）



富良野の木に会う

ガイド 倉橋昭夫さん

⑨ ホオノキ

大輪鮮やか子供に人気

ホオノキは日本産常緑木。月1旬に咲くホオノキシ 海部中心部」の建つ一角
 葉の中では、もともと大 きい宿根です。ホオノ キに「雪花」のエッセムラサ
 きな花を咲かせる樹木。ホオノキの花は5月中旬に葉を ナツツシとともにも見えら
 ず、花の直径は大きいも、広げてから6月に咲き、 われていきます。昔の文化祭
 ので20時もありました。や、ホオノキの花が華やか 開催にもあります。
 や樹皮を割った白樹皮大 先に染くのと対照的であ 葉が長き初め、幼げと天
 香く枝が揺まわって付く 特徴があります。樹木等
 型で子どもたちにすぐ見 えるのもです。

さな花が上向きに咲き、 ります。
 著しい香りを新緑の香に 1973年9月、富良 野市の「市木」にオナ
 関わります。 ミクレン科ミクレン属 とホオノキが選定され、
 の一類であり、初春のち 富良野小の学校校庭の「正
 二おわり」